

Theoretical Analysis and Model Experiments on Electromagnetically Driven Flow in Continuous Casting

By *Shigeo ASAI, Nobuyuki NISHIO and Iwao MUCHI*

Operation of Blast Furnace without Liquid Fuel

By *Yuji KAJIKAWA, Ryuichi NAKAJIMA, Sumiyuki KISHIMOTO, Atsushi SAKAI, Masanori SAITO and Tomoo KAMOSHIDA*

Grain Refinement and Superplastic Behavior in a Commercial Bearing Steel

By *Motohiro OKADE, Masaharu TOKIZANE and Oleg D. SHERBY*

Crack Arrest Toughness of Structural Steels Evaluated by Compact Test

By *Yoshifumi NAKANO and Michihiro TANAKA*

Abstracts from Tetsu-to-Hagané, Vol. 68 (1982), No. 1 (January)

Contents of Tetsu-to-Hagané, Vol. 68 (1982), No. 1 (January)

Preprints for the 102nd ISIJ Meeting—Part I

~~~~~

会員は「鉄と鋼」あるいは「Trans. ISIJ」のいずれかを毎号無料で配布いたします。「鉄と鋼」と「Trans. ISIJ」の両誌希望の会員には、特別料金 4,000 円の追加で両誌が配布されます。

#### (訂正)

本誌第 67 巻第 16 号第 68 巻第 1 号目次案内中、報告「第 3 回日本・スウェーデンプロセス冶金学シンポジウム」及び「クリーンスティール国際会議」報告は都合により第 68 巻 2 号に掲載変更させていただきましたのでお知らせいたします。

## 「鉄と鋼」特集号原稿募集案内

**テーマ：製鉄技術における最近の進歩**

原稿締切日 昭和 57 年 3 月 15 日 (月)

昭和 55 年 11 月号 (第 66 年第 13 号) では、製鉄特集号として原料、操業、炉内解析にわたる成果をまとめ、好評を博しました。その後も、製鉄技術分野における技術の発展は、基礎および応用の両面にわたって目覚ましいものがあります。とりわけ、焼結鉱の基礎理論と製造技術における進歩、オールコークス操業技術の確立、装入物分布制御理論の進展と制御技術の定着、種々の観測技術の普及等々にそれを見ることができるようになります。さらに、エネルギー事情の多様な変化に対応して、トータル・コスト・ミニマムの視点からの技術評価にも大きな進展がみられるようです。

そこで、今回は、とくにこれらの視点を踏まえた特集を組んでみたいと思います。論文ならびに技術報告の両分野で、多くの御投稿を期待します。

記

1. テーマ 製鉄技術における最近の進歩
2. 原稿締切日 昭和 57 年 3 月 15 日 (月)
3. 発行 鉄と鋼第 68 年第 15 号 (昭和 57 年 11 月号)
4. 原稿枚数 表、図、写真を含めて所定の原稿用紙
  - 1) 論文 40 枚以内 (刷上り 8 ページ以内)
  - 2) 技術報告 35 枚以内 (刷上り 7 ページ以内)
  - 3) 原稿は本会寄稿規定に基づいて執筆下さい。
  - 4) 投稿された論文は編集委員会において審査されます。
5. 問合せ・原稿送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 F  
(社)日本鉄鋼協会編集課特集号係 電話 03-279-6021

(注) 投稿時、原稿表紙に「製鉄特集号」と朱書して下さい。